文理融合、
グローバル人材育成、
アクティブラーニング

増田 研
長崎大学　多文化社会学部
熱帯医学・グローバルヘルス研究科

2015年9月3日　神戸大学

構成

1. 文理融合・異分野融合カリキュラムによる人材育成
2. 多文化社会学部フィールドワークモジュールのコンセプトと授業構成の紹介
3. 他の講義授業におけるアクティブラーニング実践例
4. まとめ

文理融合・異分野融合カリキュラムによる人材育成

- 環境科学部における文理融合
- 国際健康開発研究科（TMGH校）における
  異分野融合教育とグローバル人材育成

長崎大学環境科学部　Faculty of Environmental Studies

- 1997年教養部改組により発足
- 教員約50名、学生定員一学年150名
- 「国立大学初の文理融合学部」

環境科学部は、「人間と環境との調和的共生」を人類史的な課題と定義し、次の世紀に向けて、自然と人間との調和を踏まえた地球環境の全体的保全と人間社会の持続的発展を可能にする社会システムを構想し、理想的環境の創造・実現に寄与することを教育研究の理念としています。効率と豊かさを追求してきた２０世紀文明は、その負荷として地球環境問題をもたらしました。これは地球の全体的環境の汚染・破壊をまねき、地球環境を維持するシステムの持続性を脅かす、人類の存続そのものを危うくする深刻かつ重大な問題です。こうした地球環境問題を解決し、人類の発展と地球環境の有限性とを調和させ、地球環境を全体的に保全し人間社会の持続的発展を図っていくためには、あらゆる生き物をはぐくむ森羅万象、すなわち自然環境の原理（メカニズム）の研究と人間の文化・文明の根源的理解に基づく理想的社会システムの実現が求められています。

長崎大学環境科学部　Faculty of Environmental Studies

環境政策（文系）	環境保全設計（理系）
法学	生態学（動物・植物）
政策学	化学
経済学	物理学
教育学	数学・統計学
社会学	薬学
思想・哲学	土木・都市計画
史学・人類学・民俗学	地学
文学・言語学	生理学

- カリキュラム上に留まる「文理融合」
- 所属ゼミにおける個別ディシプリンへと回収
- 「文理」の「協働」や「融合」とはなにか、という問題についての議論の不在

1.2 国際健康開発研究科（TMGH校）における異分野融合とグローバル人材育成

- 2008年4月に新設された独立研究科
  - 2015年4月より熱帯医学・グローバルヘルス研究科国際健康開発コースに改組
- 定員10名（2学年20名）
- 公衆衛生修士（Master of Public Health: MPH）を授与
- 複数の部局から教員を集めてカリキュラムを構成
  - 国際連携研究戦略本部、熱帯医学研究所、医学部、経済学部、留学生センター、環境科学部（→多文化社会学部）、工学部
- 学生の多くが国際開発の経験をもち、そのほとんどが看護師・助産師など医療系出身

特論基礎科目

基礎人間生物学
人間の安全保障論
　熱帯公衆衛生学特論
　熱帯医学
　環境保健学
　健康リスク学
　疫学・統計学
　母子保健学
　保健医療倫理学
　人口動態・集団保健学
　健康増進・教育学
　環境影響・対策論

医学・公衆衛生
＋
社会開発
＋
社会科学

特論応用科目

国際保健医療援助学特論
国際援助概論
国際保健医療政策論
国際保健医療事業マネージメント
文化･医療人類学
国際開発の経済学I（マクロ経済）
国際開発の経済学II（ミクロ経済）
緊急医療援助論
社会調査法
サーベイランス･システム論

実習科目
長期インターンシップ
短期フィールド研修

演習科目
国際保健学演習

1.2 国際健康開発研究科（TMGH校）における異分野融合とグローバル人材育成

- 英語教育
  - 国際保健の現場においては英語が必須
  - 英語の補習および英語開講科目
- アドバイザリーボード教員（主に外国人の実務家や研究者）による講義の提供
- 7割ほどの学生が修士論文を英語で執筆（成果還元のため）
- PCM(Project Cycle Management)やPDM(Project Design Matrix)など、外部から招聘した実務家講師によるワークショップを実施

1.2 国際健康開発研究科（TMGH校）における異分野融合とグローバル人材育成

- 実践：インターンシップと課題研究
- 指導上のディシプリン協働（あったり、なかったり）

1.2 国際健康開発研究科（TMGH校）における異分野融合とグローバル人材育成

1.「**多元的医療状況**下における新生児ケア：バングラデシュ北西部の事例」

2.「バングラデシュ北東部、茶プランテーション・コミュニティにおける**住民のマラリア予防と治療に関する認識と実践**」

3.「ケニア北東州ガリッサ県半**定住牧畜民社会**における、**母親の子供の健康を促進する行動**に関する研究」

★ 4.「マラリアと発熱疾患に関する**ローカルな病因論と治療希求行動**：フィリピン、パラワンにおける**医療人類学的研究**」

★ 5.「保健普及員による知識の伝達と住民の行動変容：エチオピア・アムハラ農村部における**「有害な慣習」をめぐる人類学的研究**」

6.「ブルキナファソ村落部におけるマラリア**治療選択とその文化的意味**」

★ 7.「エチオピア農村部における**自宅分娩慣行**の研究」

★ 8.「バングラデシュ・コミラ県、ダッカーチッタゴン幹線道路沿いにおける**交通事故と脆弱な道路利用者**の研究」

★ 9.「フィリピン共和国 ビリラン州における小児肺炎の**病気認識とケア希求**に関する研究」

★ 10.「エチオピア国ティグライ州都市部における**社会的に脆弱な女性**への公平かつ安全な中絶サービスの提供に関する課題：**中絶希求行動**の検討を中心として」

1.2 国際健康開発研究科（TMGH校）における異分野融合とグローバル人材育成

1. 「**多元的医療状況**下における新生児ケア
2. 「バングラデシュ北東部、茶プランテー
   防と治療に関する認識と実践」
3. 「ケニア北東州ガリッサ県半**定住牧畜民**
   に関する研究」
4. ★ 「マラリアと発熱疾患に関する**ローカル**
   における**医療人類学的研究**」
5. ★ 「保健普及員による知識の伝達と住民の
   「有害な慣習」をめぐる人類学的研究」
6. 「ブルキナファソ村落部におけるマラリ
7. ★ 「エチオピア農村部における**自宅分娩慣**
8. ★ 「バングラデシュ・コミラ県、ダッカー
   な道路利用者の研究」
9. ★ 「フィリピン共和国 ビリラン州における小児肺炎の**病気認識とケア希求**に関する研究」
10. ★ 「エチオピア国ティグライ州都市部における**社会的に脆弱な女性**への公平かつ安全な中絶サービスの提供に関する課題：**中絶希求行動**の検討を中心として」

- 研究課題と関連のある活動・機関・調査にて5ヶ月のインターンシップを実施
- 国際保健の課題（感染症、母子保健など）に人類学的／民族誌的／質的に取り組む
- 英語で執筆する意図と、指導上の困難

多文化社会学部概要：理念

多文化の共生と協働が求められる現代世界において、存在感をもって政治・経済、文化、社会活動分野等で国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

① 高度の英語力（TOEFL PBT600点（iBT100点））を有し，グローバル化する世界における多文化状況において，英語でコミュニケーション及びプレゼンテーションができる。

② グローバル化する世界における多文化状況に関する基盤的知識を有し，文化的多様性の意義を理解できる。

③ グローバル化する世界における多文化状況の中で，人々と共生的な関係を築き,問題解決に向けて，パートナーシップやリーダーシップを発揮して行動することができる。

多文化社会学部概要：モジュールとナンバリングシステム

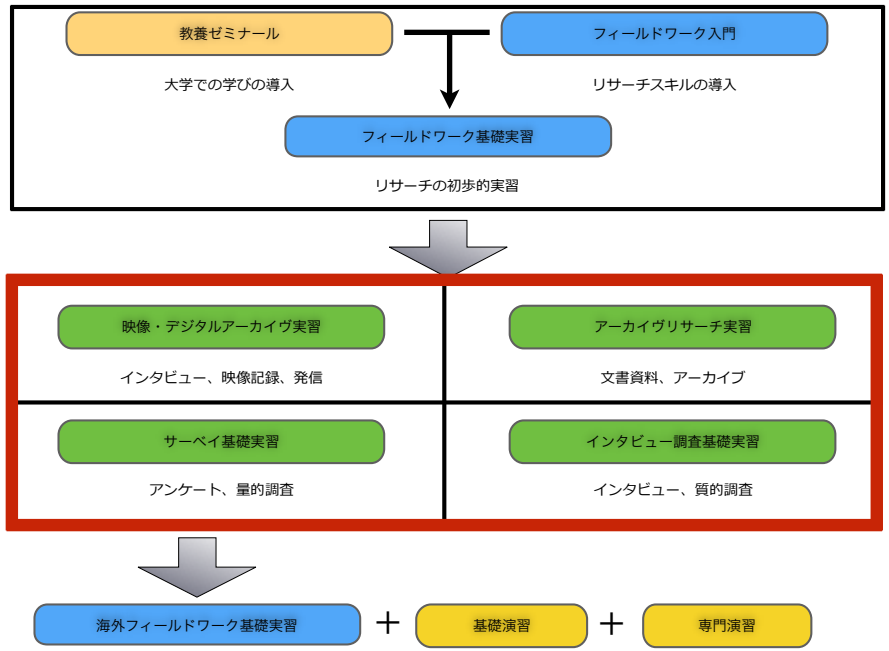
- モジュールシステム：テーマごとの科目群の組み合わせによる単位システム
- ナンバリング：留学と単位互換を見越し、欧米の仕組みを参考にして策定
- 「人文社会系グローバル人材が身につけるべき４つの能力」としてモジュールの位置づけを説明

ことばの力	高度の外国語能力と コミュニケーション能力	**英語モジュール** **中国語モジュール**
調べる力	フィールドにおける リサーチスキル	**フィールドワーク・モジュール**
知識・考える力	多文化状況の 意義の理解	**学部モジュール** **共通基礎モジュール** **専門モジュール**
行動力	リーダーシップ・ パートナーシップと 問題解決力	**留学** **フィールドワーク** **インターンシップ**

４つの必要な力 → 身につけるべき能力 → 提供されるカリキュラム

2. 多文化社会学部フィールドワークモジュールのコンセプトと授業構成の紹介

フィールドワークモジュール



フィールドワーク入門（必修）

「フィールドワーク入門」は，フィールドワーク・モジュールの導入科目である。ここでいうフィールドワークは，文書資料の探索からアンケート調査，インタビュー調査，参与観察，物質文化の収集まで幅広い範囲を指し，また学問分野においても社会学，人類学，民俗学，歴史学，考古学など多様な分野をカバーする。本講義の受講を通して，一次資料収集の重要性と方法論の基礎を理解し，実習科目への導入とするだけでなく，フィールドワークの実践例に触れることにより様々な学問分野，多様なフィールドのあり方への理解を導く。

定量的調査

インタビュー調査

参与観察

文書・物質資料

フィールドワーク基礎実習（必修）

「フィールドワーク入門」で学んだ多様なフィールドワークのアプローチの中から、調査テーマや課題に応じて適切な方法を選択し、フィールドワークの設計ならびに実習を行う。「教養ゼミナール」で学んだ文献探索の技術を用いて、課題に対して適切な文献収集を行い問題設定を行った後、調査方法の選定、質問票の作成、データの整理と分析、発表という一連のプロセスを共同で行う。このプロセスを通じて数次にわたるフィードバックとブラッシュアップを経験し、実際の問題発見と問題解決のプロセスを経験的に理解することができる。

実施内容：課題設定、調査の設計、プレテストの実施、調査の実施、報告と発表、最終報告書の作成

アーカイブ実習（選択必修）

【選択必修】1年・後期

世界には多くのアーカイブが存在する。1990年代以降，それらに収蔵されている資料のごく一部はデジタルアーカイブとして保存・公開され，ネットワークを通じ多数の利用に供されるようになっているものの，依然として大多数の資料はデジタル化されておらず，それらを用いて研究をするには，文書館・資料館等に赴き，原本に直接ふれる必要がある。本授業においては，海外や日本のアーカイブについてその概要を学んだうえで，実際の資料の扱い方について，長崎大学附属図書館等に残された資料類を用いて実習を行う。

映像・デジタルアーカイブ実習（選択必修）

【選択必修】2年・前期集中

本授業では，アーカイヴとは何かという基本事項を再確認した上で「自分たちの足元をアーカイヴする」をテーマに映像アーカイヴの作成に取り組む。「灯台もと暗し」という言葉があるように私たちはしばしば身近にあるものの意義や重要性に気づかなかったり，またそれを軽視したりする。映像として何を対象に選ぶか，それをどのように撮影するか，またそれを最終的にどのような映像に編集しアーカイヴとして残すか，それぞれのステップにおいて十分な準備が必要だ。作業は数名ごとのグループで進める。よきチームワークで臨んでほしい。

サーベイ基礎実習（選択必修）

【選択必修】2年・後期

サーベイとは，質問紙によってデータを収集する社会調査法である．本授業では，小グループ単位で，実際にテーマを選ぶことから始めて，調査の設計，質問紙の作成，実査，回収した質問紙のデータ化および分析，そして報告書作成までの全プロセスを実習する。また，講義を通じて，尺度法およびサンプリングなどの理論や，調査における倫理的問題について理解を深める。統計ソフト(SPSS)を使ったデータの集計法や分析方法についても，講義および演習を通じて体得する。統計学については，基礎から学習するので，予備知識は必要ない。

インタビュー調査基礎実習（選択必修）

【選択必修】2年・後期

質的調査法のなかでも代表的なインタビュー調査の方法を学び、実践する。

実施内容：フォーカス・グループ・ディスカッションとパイル・ソート、テキストデータのコーディング、コードストラクチャーの作成、ライフヒストリー、質的調査の企画立案（調査の社会的意義、方法の妥当性、倫理的配慮）、プレテストの実施、調査の実施

海外フィールドワーク実習（選択）

【選択】3年・通年

海外フィールドワーク実習は，フィールドワークモジュール諸科目で学んだことを発展させ，なおかつ語学力を駆使しながら海外において合同でフィールドワークを行う科目である。その目的は，(1)フィールドワーク科目で学んだ方法論を駆使する，(2)英語をはじめとした外国語による調査を実施する，(3)調査対象国ならびに対象地に関する文献サーベイを通じた調査計画の立案から渡航，交渉，調査，成果発表のプロセスを学生の自主的な活動として展開すること，である。
実施内容事前学習，ケニアにおけるフィールドワークおよびスタディーツアー，報告書の作成ならびに報告会の開催

フィールドワーク入門（多文化社会学部、100名）

100人の学生、

5人のスタッフによるワークショップ

フィールドワーク入門：授業構成

- 第1回：３つの科学
- 第2回：調査計画WS ◎
- 第3回：調査倫理
- 第4〜6回：量的調査
- 第7〜9回：インタビュー調査 ◎
- 第10〜12回：参与観察 ◎
- 第13〜15回：文書・物質資料調査

担当教員は13人
ローテーションで5人が担当

学問分野
- 人類学
- 社会学
- 歴史学
- 考古学
- 民俗学
- 宗教学

フィールドワーク入門：大人数AL

第2回「バーチャルフィールドワークの計画書」（担当：増田研）

写真から得た「？」を「！」にするための、仮説設定、調査方法の選定、実現性の検討を行う。

フィールドワーク入門：大人数AL

第9回「学生相互のインタビュー実践」（担当：賽漢卓娜）

インタビュー調査の事例の講義

↓

2人一組でおしゃべり

↓

質問作成

↓

相互インタビュー

↓

まとめ作業

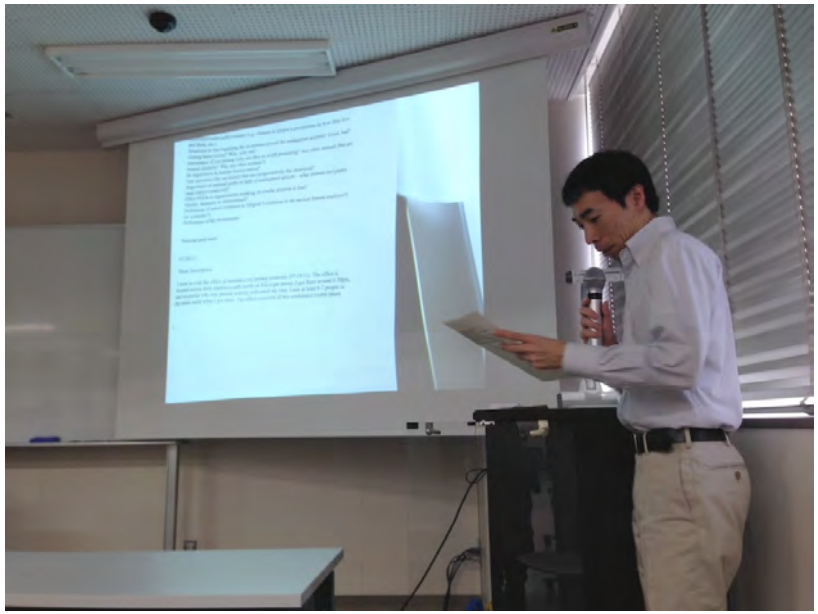
↓

発表

フィールドワーク入門：大人数AL

第11～12回における模擬参与観察とフィールドノーツの整理

（担当：見原礼子）



参与観察調査とフィールドノーツ
作成の事例紹介
（増田、見原、河内、阿部）
↓
映像資料を現場に見立てた観察
↓
メモ作成
↓
「整理されたフィールドノーツ」
の作成

フィールドワーク入門：大人数AL

「フィールドワーク入門」

講義とアクティブラーニング

まずはやってみる
感触を得る
「簡単ではない」ことの実感

「フィールドワーク基礎実習」

課題設定
計画
調査の実施
報告

アーカイブ調査実習

映像・デジタルアーカイブ実習

サーベイ実習

インタビュー実習

海外フィールドワーク実習

他の科目における
アクティブラーニングの実践例

1.「環境と民俗」（全学教養教育、約50名）

2.「共生のグローバル人類学」（全学教養教育、約40名）

3.「他者と生きる技法」（多文化社会学部、約80名）

4.「海外フィールドワーク実習」（多文化社会学部、未開講（2016年度開講））

他の授業におけるアクティブラーニング実践例

「環境と民俗」（全学教養教育、約50名、2013年）

ワークショップ比重の高い授業運営

他の授業におけるアクティブラーニング実践例

「環境と民俗」（全学教養教育、約50名、2013年）

- **河童ワークショップ**
  - 柳田国男『遠野物語』を読んで、河童の出没地図を作る
- **漁村ワークショップ**
  - 都市と農村の講義に続いて、漁村の生活を成立させる社会環境を図にする
- **もののけ姫ワークショップ**
  - 映画「もののけ姫」の世界を1枚の絵図にする
- **長崎異界ワークショップ**
  - 大学から半径1kmの範囲内に「異界への扉」を見つけて写真撮影し、大正13年の大学周辺地形図に落とし込む。

概念や考え方を小出しにして、それを活用した検討をチームで行い生態環境と社会環境の関係の理解：生業・生産、都市と農村、超自然要素を組み込んだ生活圏の理解へと導く

他の授業におけるアクティブラーニング実践例

「環境と民俗」（全学教養教育、約50名）

▸ワークショップ実施モデル

講義
・概念や考え方の提供
・課題の方向付け

素材提供
・書籍、論文、記事
・映像資料

フィールドワーク
・写真や観察メモ

（宿題としてあらかじめ提出）

→

ワークショップ
・手順説明（10分）
・作業（50分）
・発表（20分）

→ 個別に課題提出

✓あらかじめチーム分けをする
✓10色マジックセットと、模造紙などの資材の調達

✓50分のあいだに、作業の方向付けのための時間（1〜2分）を数回はさみ、小まめにケアする。

他の授業におけるアクティブラーニング実践例

「共生のグローバル人類学」（全学教養教育、約40名）

「全体ふり返り」の導入

他の授業におけるアクティブラーニング実践例

「共生のグローバル人類学」（全学教養教育、約40名）

- 第1～5回：グローバル世界と人類学（講義）
- 第6～9回：アフリカにおける紛争
- 第10回：社会開発（導入）
- 第11～14回：社会開発（AL中心）
- 第15回：ふり返り

・アフリカで活動する人類学系教員3人による講義

・受講生は学部混合

- 授業の第3部で社会開発に関するチーム作業を取り入れる
- 第14回授業で発表会
  - 学生相互に採点（成績に反映）
- 最終回で、授業全体のふり返りを行う

「共生のグローバル人類学」

2014シラバスより

どのような講義か

- 私たちが生きる世界においては、共生の重要性を誰もが認めつつも、それと真っ向から対立する出来事が充ち満ちている。
- 必要なことは「過去に学び、現在を理解し、未来を構想する」、そのための身のこなしを習得することであり、そのこと自体の重要性を理解することであろう。
- またグローバル化された世界を構想する力を養うことは、自らのポジションを見定めることでもある。

スケジュール

2014シラバスより

1．（4/8）現代社会の多様な問題と「共生」（増田）
2．（4/15）世界はボーダーレスの球面である（増田）
3．（4/22）帝国主義と植民地、世界システム（増田）
4．（5/13）文化人類学のアプローチ（増田）
5．（5/20）エスノグラフィーを書く：紛争と健康と教育（増田）

ベーシック

6．（5/27）アフリカにおける紛争の研究：導入（波佐間）
7．（6/3）敵対と友好を揺れ動く民族間関係（波佐間）
8．（6/10）マスメディアがむける東アフリカの民族紛争へのまなざし（波佐間）
9．（6/17）東アフリカ牧畜社会での平和構築と外部介入（波佐間）

「紛争」

伏線

１０．（6/24）社会開発（Social Development）とは何か？（増田）

１１．（7/1）第二次世界大戦中、戦後の人類学の歴史的背景（佐藤）
１２．（7/8）世界銀行の中での人類学、人類学者（佐藤）
１３．（7/15）開発と人類学：事例紹介（佐藤）
１４．（7/22）開発と人類学：事例紹介、まとめ（佐藤）

「社会開発」チーム作業

１５．（7/29）全体のまとめ（増田）　**全体ふり返り**

第11〜14回　社会開発

社会開発イシューのなかから、とりわけジェンダー、貧困、教育などに関する国際社会の取り組みについて講義を行い、並行してチーム作業を行う。

第11回	第12回	第13回	第14回
講義	講義	講義	**発表会**
＋	＋	＋	**＋**
チーム作業	チーム作業	チーム作業	**相互採点**

時間外に作業継続

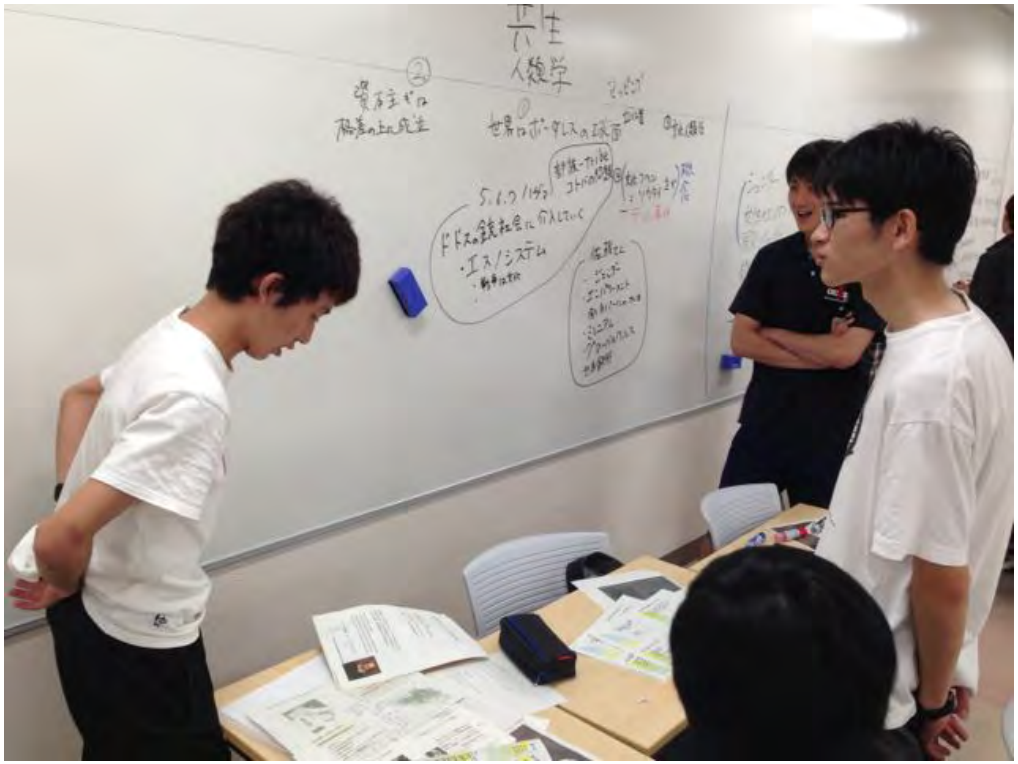
2015年テーマの一覧

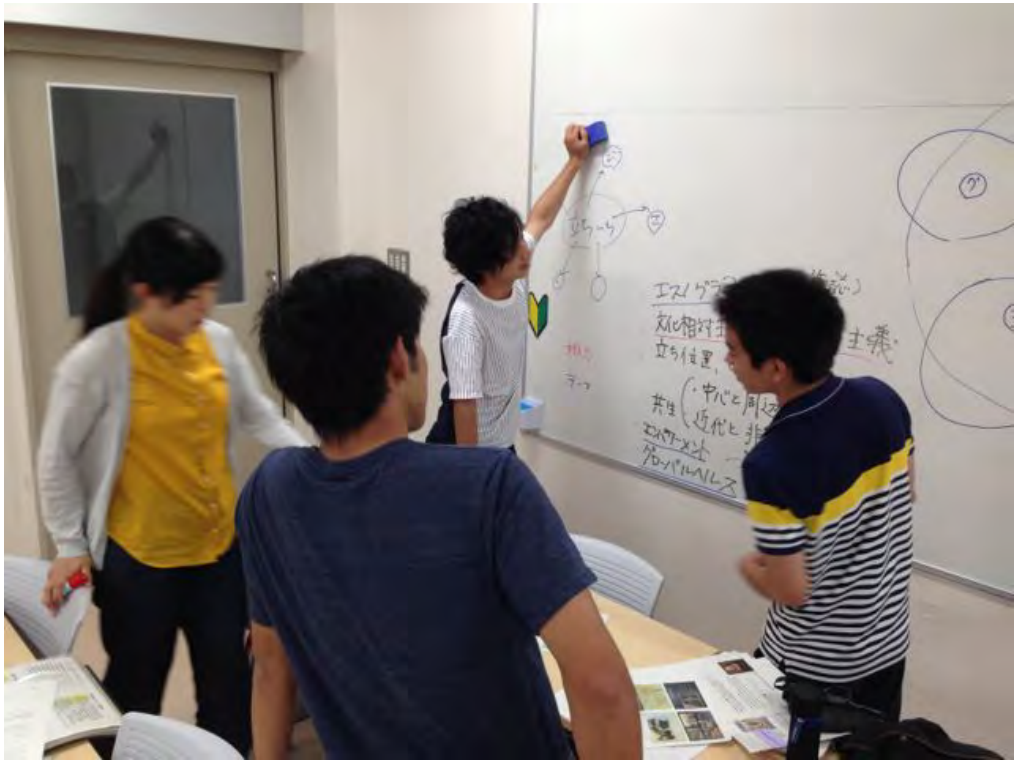
- ブラジルの格差問題に対する解決策
- フィリピンの貧困格差：貧困層の子どもたち
- ソマリアの海賊問題
- ルワンダにおけるIT国化について
- ブラジル開発：成功の裏に隠された闇
- アメリカの貧困：富者が一層富み、貧者が一層貧しくなる国
- アフガニスタンの社会開発問題
- 中国におけるPM2.5問題

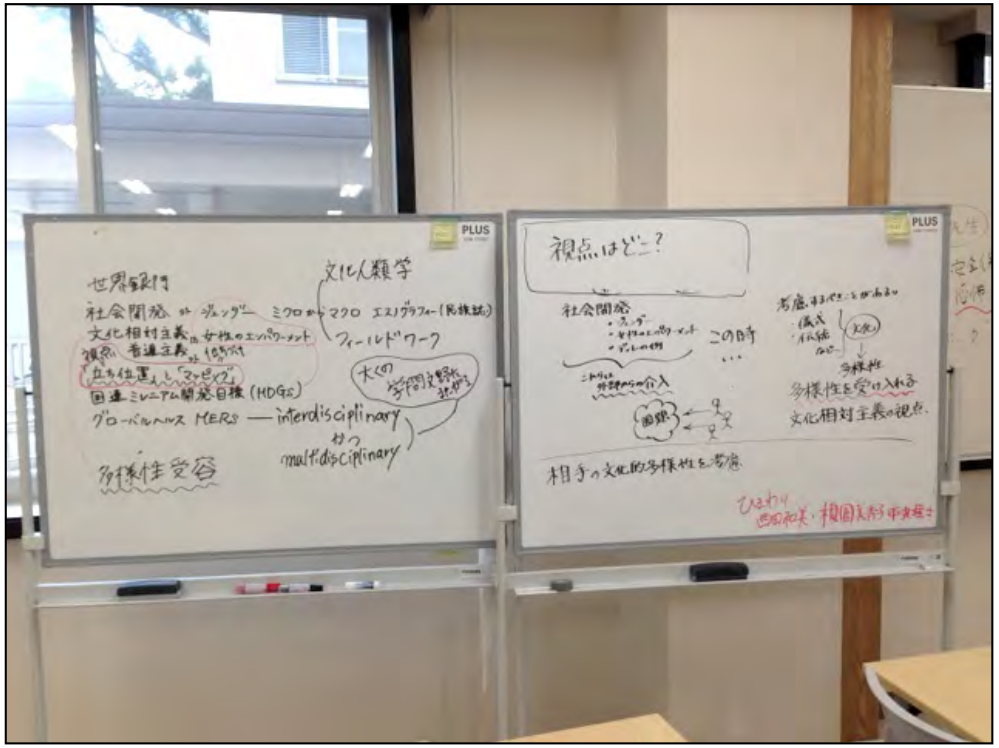
第15回　「全体ふり返り」

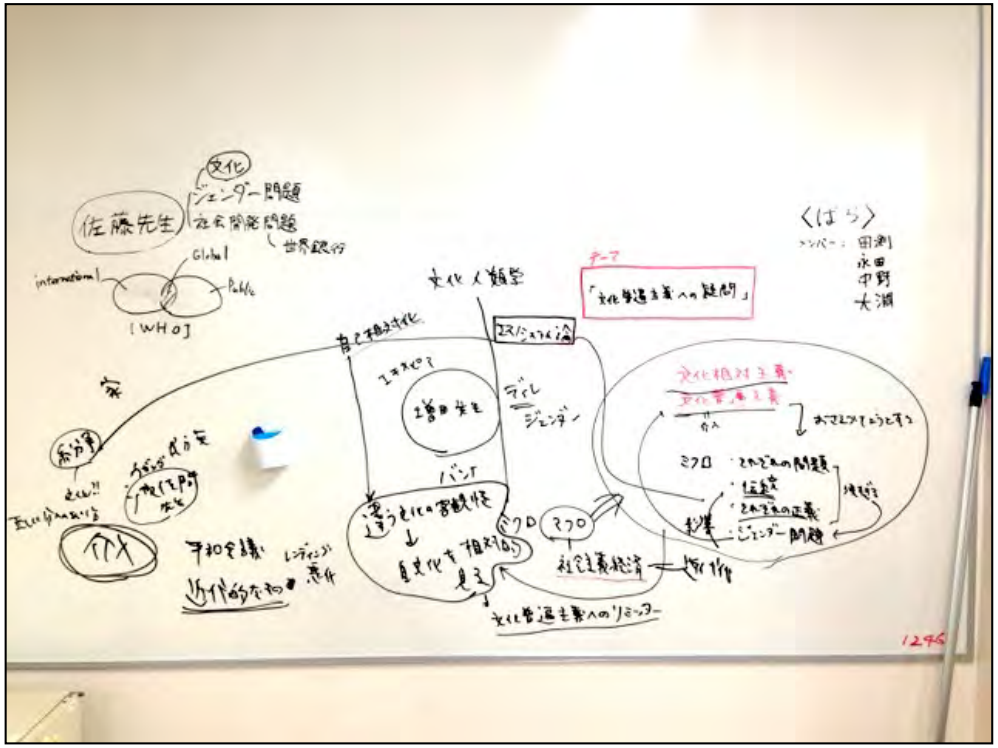
社会開発の陰
社会的意識
エスノグラフィー
ゲートキーパー
民族
文化相対主義
文化普遍主義
Gender
Sex
国民国家
西洋中心
近代社会システム
大発見時代

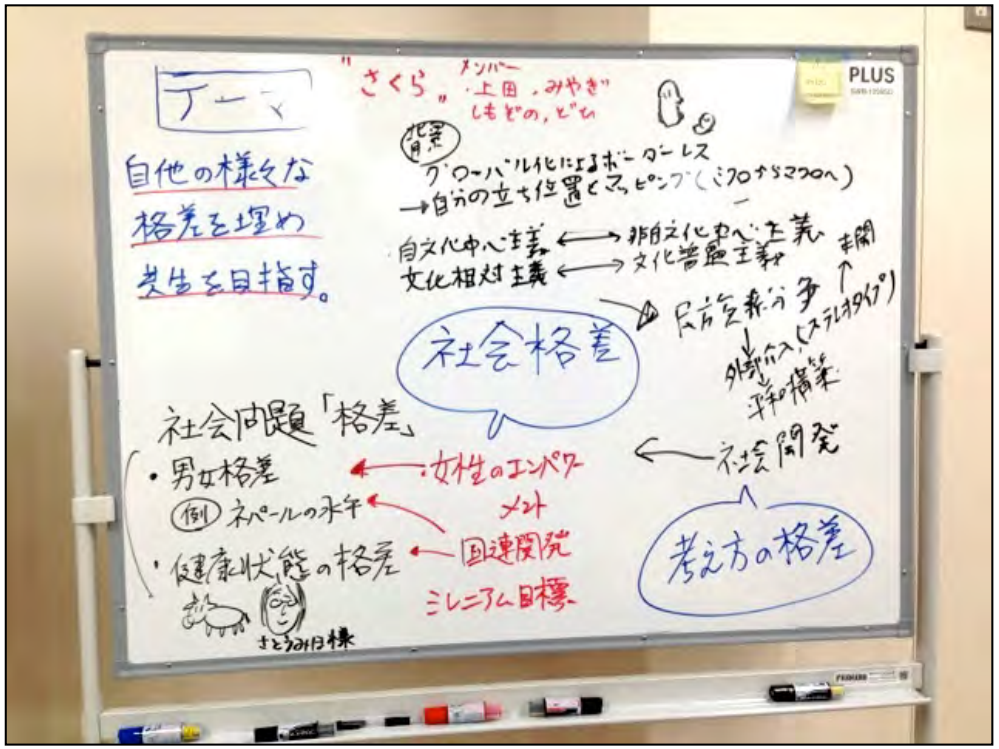
社会的意識
インターナショナルヘルス
グローバルヘルス
国民国家
エスノグラフィー
ゲートキーパー
民族
文化相対主義
文化普遍主義
Gender
Sex
社会開発
Development
西洋中心
近代社会システム
大発見時代

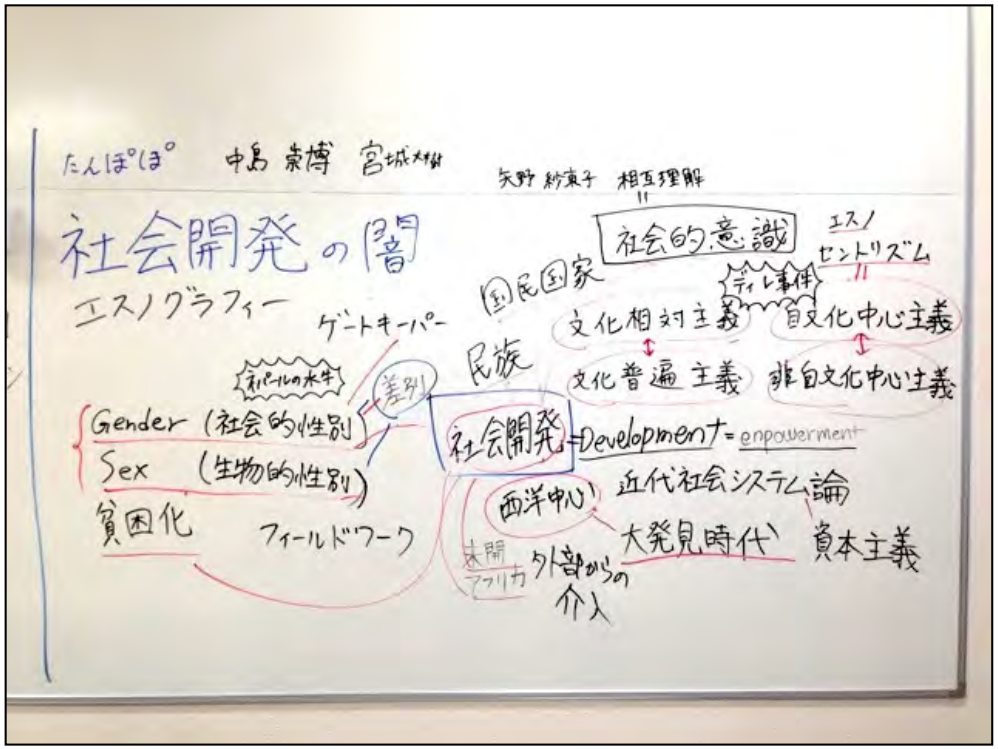





世界観
文化人類学
フィールドワーク
視点はどこ？
この時
相手の文化的多様性を考慮
多様性受容


佐藤先生
〈ばら〉
「文化普遍主義への疑問」
文化人類学
エスノセントリズム
介入


テーマ
"さくら"
自他の様々な
格差を埋め
共生を目指す。
グローバル化によるボーダーレス
自文化中心主義 ⟷ 非自文化中心主義
文化相対主義 ⟷ 文化普遍主義
社会格差
社会問題「格差」
・男女格差
例 ネパールの水牛
・健康状態の格差
女性のエンパワーメント
国連開発
ミレニアム目標
社会開発
考え方の格差


たんぽぽ
中島 宗博
宮城
矢野 紗衣子
相互理解
社会的意識
エスノセントリズム
社会開発の闇
エスノグラフィー
ゲートキーパー
文化相対主義
自文化中心主義
文化普遍主義
非自文化中心主義
民族
Gender (社会的性別)
Sex (生物的性別)
社会開発
Development = empowerment
貧困化
フィールドワーク
西洋中心
近代社会システム論
大発見時代
資本主義
外部からの介入

全体のふり返りをする意義

- シラバス上の「目的」や「ねらい」「到達目標」の確認を促す機会
- 授業が「一話読み切り」ではなく、「ストーリー」であることの認識を促す効果
- キーワード、コンセプト、重要概念などの再確認を促す効果
- みんなで復習する機会の提供
- 教室の一体感の演出

他の授業におけるアクティブラーニング実践例

「他者と生きる技法」（多文化社会学部、約80名）

「授業時間を使って試験問題を学生が作る」

他の授業におけるアクティブラーニング実践例

「他者と生きる技法」（多文化社会学部、約80名）

- 第1回：あなたにとって「他者」とは何か（増田）
- 第2回：文化的他者の「発見」（増田）
- 第3回：「他者」を作る（増田）
- 第4〜5回：ヨーロッパにおける宗教的他者と生きる技法I, II（見原）
- 第6回：近代日本における「民俗的／民族的他者」の発見（増田）
- 第7〜8回：東アジアにおける他者と生きる技法I, II（南）
- 第9〜10回：東アジアにおける他者と生きる技法III, IV（賽漢卓娜）
- 第11回：多文化社会公民館を構想するワークショップ（増田）
- 第12〜14回：組織における他者と生きる技法I, II, III（近江）
- 第15回：期末試験問題原案作成セッション（増田）

「他者と生きる技法」（多文化社会学部、約80名）

第11回：多文化社会公民館を構想するワークショップ

- 第1回〜10回までのふり返り講義
  - 多文化社会というコンセプトをコミュニティーベースで実現することへと話題を導く
- 公民館の概説
- 「多文化社会公民館」ワークショップ

多文化市民を育てる公民館

多文化市民を育てる公民館

日本人が「日本人の境界」を強くさせてきた歴史的経緯を踏まえ、その風潮を乗り越え、「対抗言説」としての「多文化市民的コミュニティーのベースとなる公民館」を構想する。

設定

西暦2030年

日本のどこか

多様な文化的背景を持つ人々が混在するコミュニティー

Work：多文化市民を育てる公民館

1.ロケーションの設定

2.どのような人々が住む地域？

3.どのようなコミュニティー像を描く？

4.そのために公民館に期待される役割は？

5.必要最小限の設備は？

6.運営上の工夫は？

「他者と生きる技法」（多文化社会学部、約80名）

第14回：クラスター爆弾禁止条約をめぐる国際会議のロールプレイ

- 第12回・第13回の講義について、国連組織、国際社会の合意形成プロセスについて概説（事例は国連海洋法条約）
- 第13回講義の終盤に、ロールプレイの役割（禁止条約賛成派諸国、反対派諸国、賛成派同盟国、反対派同盟国、NGO、など）を決定→準備を要求
- それぞれの役割がそろったテーブル一つを「ひとつの議場」として設定し、条約交渉を行う。すべての「議場」から、決議内容を報告。

「他者と生きる技法」（多文化社会学部、約80名）

第15回：期末試験原案作成セッション

- 授業全体の総括を、参加者（の多数派）である受講生が行う。
- 「どのように問われたら自分の学習成果を効果的に、最大限発揮できるか」を考える。

試験問題の作成にあたっては、次のことを同時に考える

テスト問題の作成＝授業全体のふり返り＝学習成果確認の作戦立案

1.理解を確かめたいこと

- 講義での内容、課題、ワーク、シラバスなどを再検討

2.出題形式

- 確かめる方法を考案

3.採点方法

- 採点基準・配点を検討

4.質的・量的なバランスを確認

- 80分以内に答案を書ききることができるか

他者と生きる技法（2015年7月21日）資料より抜粋

前提

1. 個別の授業内容に対する確認やワーク課題はすでに数回にわたってこなしている（教員側ですでに確認済み）
2. 最終試験で確認したいことは、全15回（実質14回）の講義と課題をやり終えたあとでの、「全体を通し、終わったあとの総合的理解」。
3. シラバスにある「ねらい」や「到達目標」の確認（シラバスを参照のこと）
4. 記憶を問う問題ではなく、理解・道筋・知識のリンケージができていることを確認する問題。（テスト勉強のための暗記に労力を指す必要を無くすために、期末試験会場にはメモ用紙の持ち込みが許可されている）

プログラム

10:30-10:45　手順の説明

10:45-11:30　ディスカッション

11:30-11:40　仕上げた原案を色画用紙に記載

11:45-12:00　班ごとの成果の説明

いちご

1 (1) イスラーム教徒に対する「異質な宗教的他者」像はなぜ生成されたか（キーワード：フェミニズム，植民地など）

(2) イスラームフォービアはなぜ増幅したのか（キーワード：PEGIDA，移民など）

2 (1) イスラーム移民受け入れに対する賛成・反対の意見 → 読み取って自由記述

(2) (1)を踏まえ，解決策の提示（箇条書きでも可）

スイカ

自分が教師であるとして、他者と共生していくにはどのようなことが必要なのか、現在の日本をとりまく社会情勢をふまえた具体例を挙げながら、生徒が理解できるように説明しなさい。

キウイ

以下の語群の5コ以上を使用して、大航海時代の西洋による東洋の他者像成立のプロセスを説明せよ。

〈語群〉

大航海時代，西洋，東洋，未開，野蛮，まなざし，人種，同時代性の否定，他者

もも

あなたが考える、他者との境界線生成のプロセスを、具体例を用いて述べよ。また、その境界線の外の他者と、あなたはどのように共生していきますか。

梨木

次のキーワードからひとつ選び他者像の成立プロセスを説明しなさい。
また、その成立によりどのような問題が生じうるのか、その問題はどのようにして解決されるのか述べなさい。

キーワード「人種的他者、ハーフ、宗教的他者、組織内における他者、歴史的他者（戦争によってもたらされた他者など）」

以下のキーワードの内2つを選び設問に答えよ。 パイナップル

フェミニズム・残留日本人・人種・ハーフ・国家

① そのキーワードによって引き起こされた他者問題のプロセスを答えよ。

② 2040年に日本では移民に関する法律が施行され、移民が日本人口の3割を超えるようになった。貴方は、その時、長崎に住んでおり、三児の親である。長崎には多くの移民が住んでおり、自分の通う学校にも多くの移民の子供がいる。
このことに対し、貴方の生活にはどのような問題が生じ、どのようにそれに対処すればよいか考え、答えよ。

「国民国家を創出するためには、その内部での民族が単一的である必要がある。それを成立させるプロセスにおいては、他者排除が行われる。」以下のキーワードから少なくとも3つ用いて、同じ成立プロセスが見られる身近な事例をあげよ。（具体的な） バナナ

パパイヤ 到王

1. 授業内で挙げられた自己と他者の例を1つ答えよ。

2. 1で答えた他者が構築された過程を具体的な例を挙げながら述べよ。
（記述式）

3. 1で答えた他者との共存において問題点を踏まえ、どのように共存したら良いか、自分の考えを述べよ。
（記述式）

リンゴ

あなたは○△国の×□大学に留学します。
資料①～⑧を用いて以下の設問に答えよ。

(1) ○△国におけるあなたはどのような他者と見なされるか？
以下の語句を用いて100字程度で答えよ。

(2) あなたにとって○△国の人々はどのような他者になりうるか？以下の語句を用いて100字程度で答えよ。

(3) ○△国の人々との共生を実現させるために、
あなたは彼らとどのように関わっていきたいか。
以下の語句を用いて200字程度で答えよ。

メロン

あなたはある国の統治者です。
その中には様々な他者がひしめいています。

(1) 考えられる他者を3つあげなさい。

(2) その他者同士を共存させるためには
あなたは何ができますか？

ぶどう

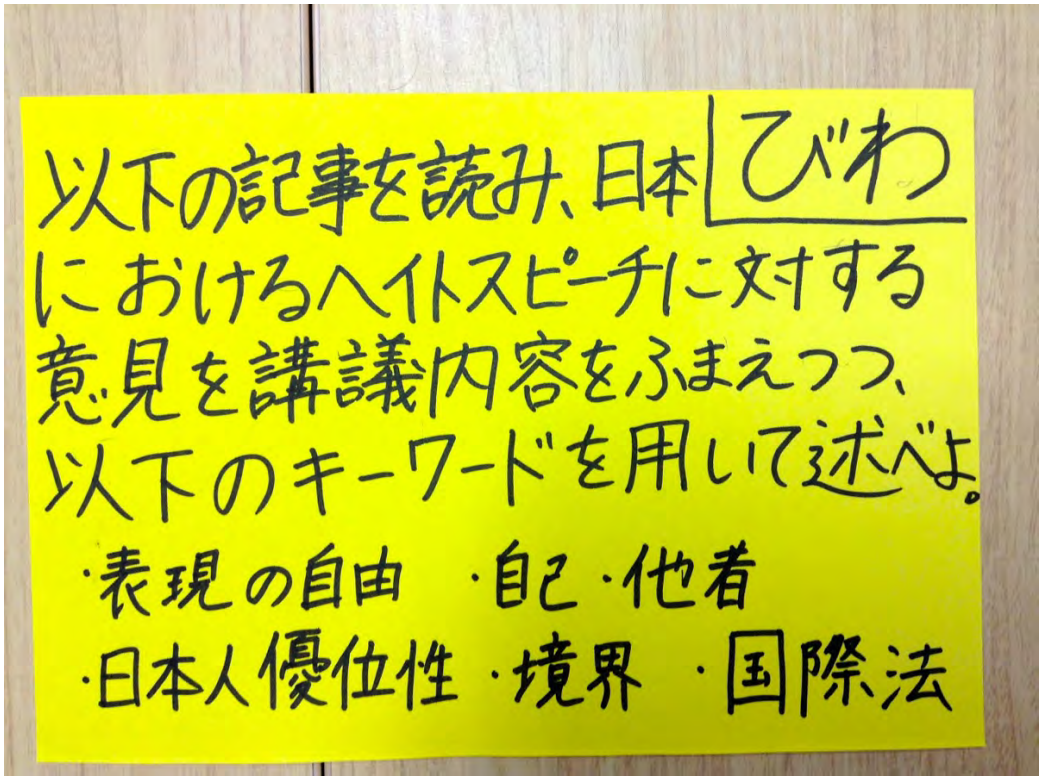
日本とアイヌの歴史に関する資料を読み、アイヌが日本にとっての他者となっていく歴史的プロセスをのべよ。また、現在の日本とアイヌの関係性について考え、今後どう関わるか、意見をのべよ。

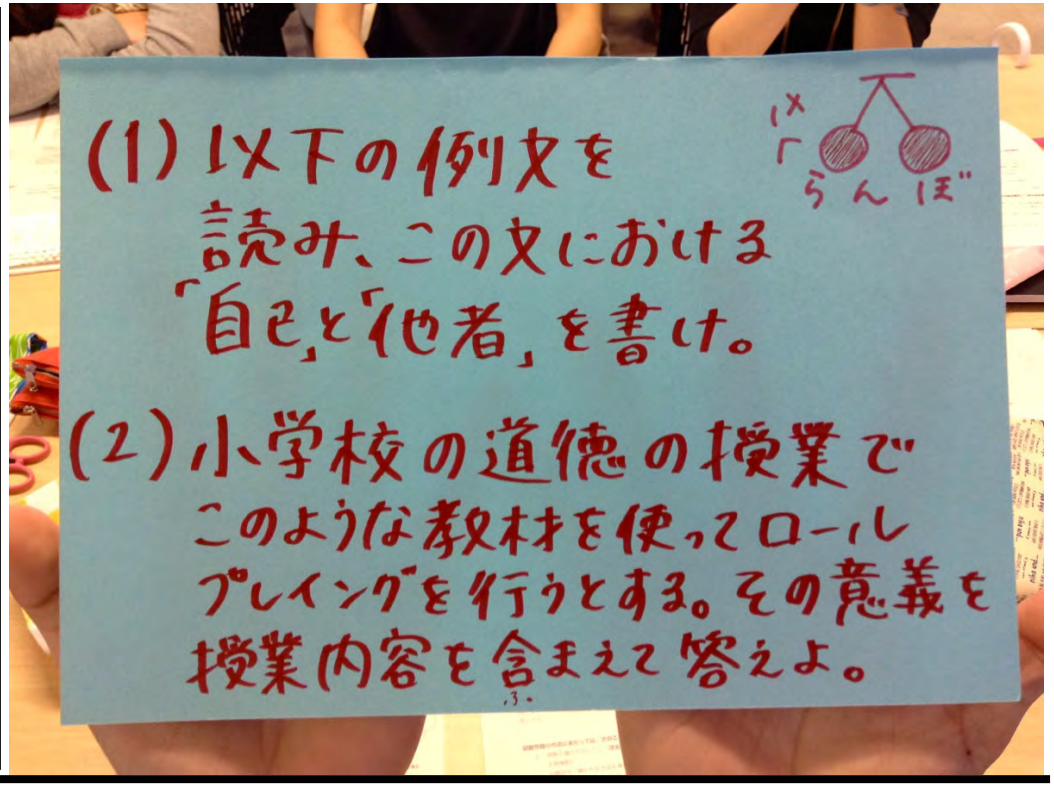
みかん

近年、国際結婚が増えているが、国際結婚に関する問題点を3つ挙げ、その解決策をキーワードをすべて用いて述べよ。

※ キーワード
宗教、言語、国際法、ハーフ、アイデンティティ、他者

※ 資料としてハーグ条約に関する記事を載せる。





ヘイトスピーチを学ぶ（あるいはヘイトスピーチから学ぶ）ための授業を中学生に対して実施します。45分間の授業時間のなかに、ロールプレイを用いた授業を計画します。これに関して以下の問いに応えてください。（配布されている資料は2014年12月から2015年7月にかけて朝日新聞に掲載された関連記事を任意にスクラップしたものです。授業を計画するにあたっては、この資料を大いに参考にしてもらいますが、解答に際してこまかく記事情報を参照する必要はありません。）

(1)　ロールプレイを実施するにあたり、生徒たちに役を割り当てます。どんな設定のどんな役を設定したら良いでしょうか？　以下に4人以上7人以内で役割を設定し、その意図を記入してください。

(2)　問題２–(1)で設定した役割でロールプレイを行うことが、その授業にどのような意義を与えるか説明してください。その授業の目的（伝えたいメッセージなど）や期待される成果、授業を実施するにあたって予想される難しさなどを明らかにすること、および説明にあたっては「他者と生きる技法」で学んだ概念や考え方を適切に用いることが必要です。

未開講の授業におけるアクティブラーニング実践例

「海外フィールドワーク実習」（多文化社会学部、人数未定、2016年開講）

まだ始まっていない科目の準備

未開講の授業におけるアクティブラーニング実践例

「海外フィールドワーク実習」（多文化社会学部、人数未定、2016年開講）

- フィールドワークモジュール（多文化社会学部）の選択科目
- 当初2年間はアフリカで実施することを決定
- 担当教員はアフリカとインド洋を専門地域とする教員3名（増田研、波佐間逸博、鈴木英明）＋FWコーチングフェロー
- 未開講科目のため、来年度の受講を希望する学生と共同で課題調査を実施
  - 前年度講義「アフリカ理解への扉」で提案
  - 2015年4月に非公式団体「アフリカハウス」を立ち上げ
  - 8月に担当教員が現地視察とカウンターパート交渉
  - 今後、シラバスの共同作成を行う予定

ワークショップ運営のポイント

- 大規模クラスにおけるアクティブラーニングを安心して実施できる体制の構築
  - 一人で対応できる人数は50人がせいぜい？
  - サポートスタッフがいたほうがよい
- チーム分け
  - 事前のチーム分けが必要（1チーム3人〜6人）
  - 履修放棄者の把握、男女比に注意
- 時間配分
- 教室巡回
- 資材準備

オムニバス科目の場合、他の担当教員との入念な打ち合わせが欠かせない

15回の講義のなかに戦略的に
アクティブ要素を埋め込む工夫の必要性

- 授業の目的（Purpose）と到達目標（Goal）の確認
- 到達までに学生がやるべきこと、習得すべき事柄を絞り込む
  - アクティブ要素は、深い理解への呼び水にすぎない
  - アクティブラーニングで習得できるような言語化された知識は限られる
- 教室内での作業の「学習成果」を確認する手段の確保
  - ワークショップはチーム作業、提出物は個人

まとめ

（人文社会系、フィールドワーク系の観点から、授業実践を通して考える文理融合、グローバル人材育成、アクティブラーニング）

- 学生の「授業への参加感」を醸成するために、教員間の認識の統一が必要
  - オムニバス科目における科目責任者のディレクション
  - FDを通した学部・学科カリキュラム理念の共通理解